

サービスニュース

ボイラを運転、管理していく上で、どの船においても予備部品を備えていると思います。
今回は、予備部品、消耗品について紹介していきます。



最近、どのような出費が？

メンテナンス訪船の前に、ほとんどの場合、電話、FAX、メールによる現状の動作、及び予備品の有無の確認を船にお願いしています。これは、状況によって船での部品交換だけで、トラブルが解決する例が多々あるからです。

予備品購入を一時的に控える事は、経費削減につながると思います。しかし、ある 1 品が無い事により、ボイラの使用が出来なくなる可能性もあるのです。

以前に、電話対応で故障部品が判明したものの、その部品を船が持たれていないという事で、チャーターにて部品を発送した例があります。送料が部品代の何十倍という額になりましたが、無事、部品は届き問題は解決されました。しかし、運送時に何らかの交通トラブル、時間ロスが発生していたならば、とても出航には間に合わなかつたでしょう。

水管理等と同様に、予備品補充もトラブルの未然回避に不可欠な事と言えます。今回、数点の消耗部品の案内、消耗品の一般的な交換時期、及び、予備品リストを紹介致します。



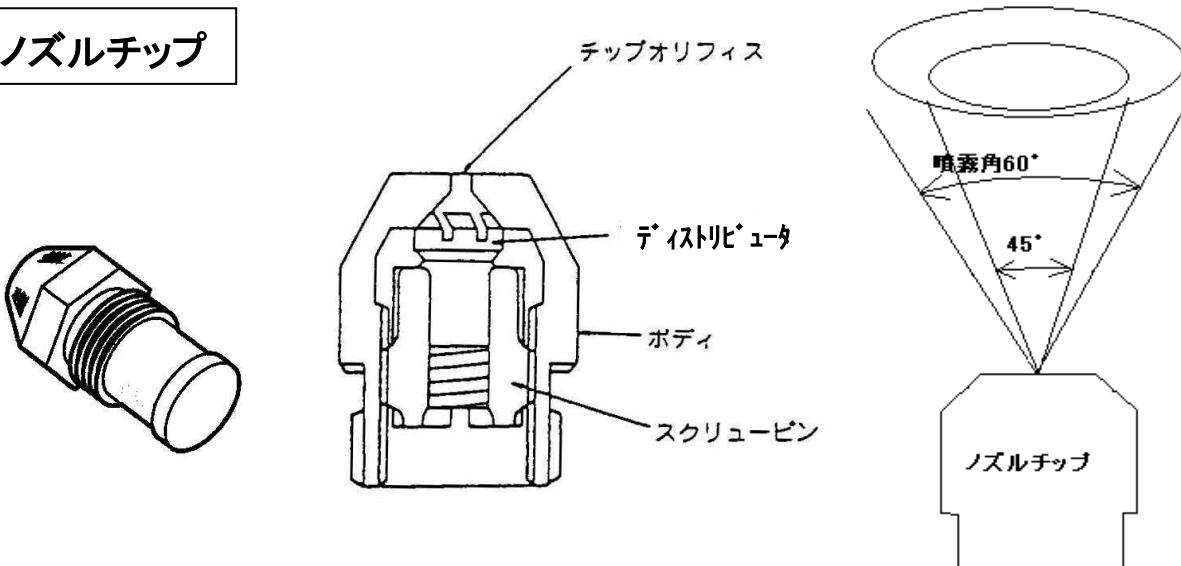
弊社サービスネットワークは下記 URL もしくは QR コードよりご覧いただけます。

<https://www.miuraz.co.jp/product/marine/maintenance/service.html>



ご不明な点がございましたら最寄りの弊社営業所へお問い合わせください。
今後ともご愛顧のほどよろしくお願ひ申し上げます。

ノズルチップ



バーナ ASSY を持つ製品には、全てに備わっている部品です。

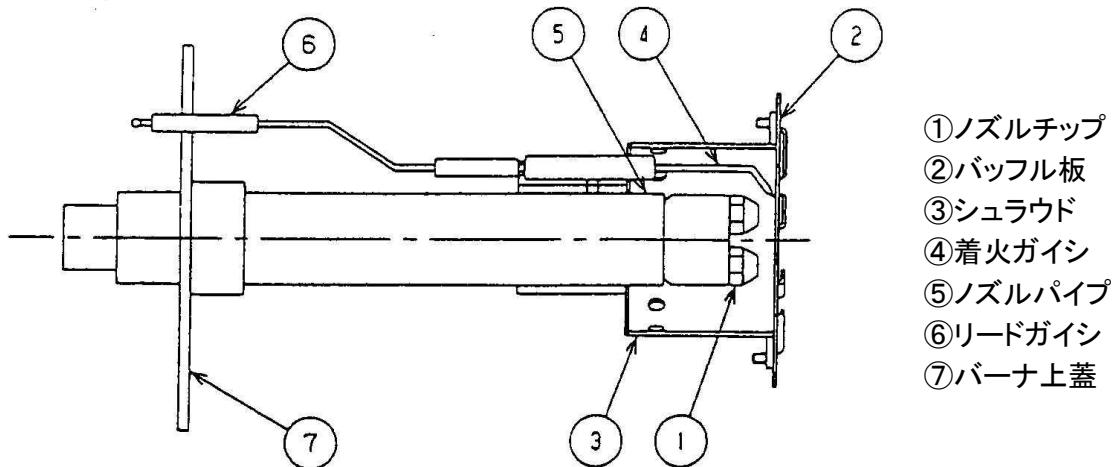
バーナの機種によっては、フィルタを取り外し、カットオフ弁を取付けて使用する例もあります。

掃除については、フィルタ(又は、カットオフ弁)の洗浄、及び、ディストリビュータ溝部分の付着ゴミの除去等を行います。

また、使用的燃料についても変わりますが、高い圧力と速い速度でオリフィス等を磨耗させるので、硬い材料を使用していますが、半年位での新替をおすすめします。

さらに、ノズルチップには噴射角 45° と 60° がありますので、正規の物をご使用頂きますようご注意下さい。

着火ガイシ及びリードガイシ



先端から高電圧スパークを発し、着火を行う機器であり、ノズルチップ同様バーナ ASSY には必要な部品の 1 つです。

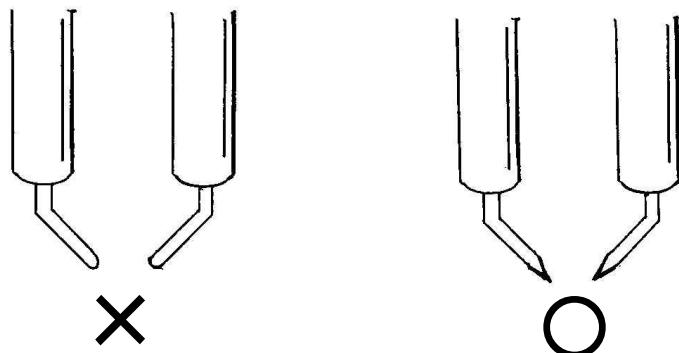
リードガイシは、バーナによっては使用しない機種もあります。排ガスエコノマイザーの共用、また、航海時間によって、バーナの使用時間も様々です。

スパーク部の消耗による交換が一般的ですが、年数が経過すると、根元に使用する白色ガイシ部の破損、そこから電圧がリークしてスパーク不良を生じる例があります。

ガイシキャップ、点火コード(ネオン線)ともにリークの疑いがある場合は、リーク現象の発見、箇所の確定が困難になる事があります。

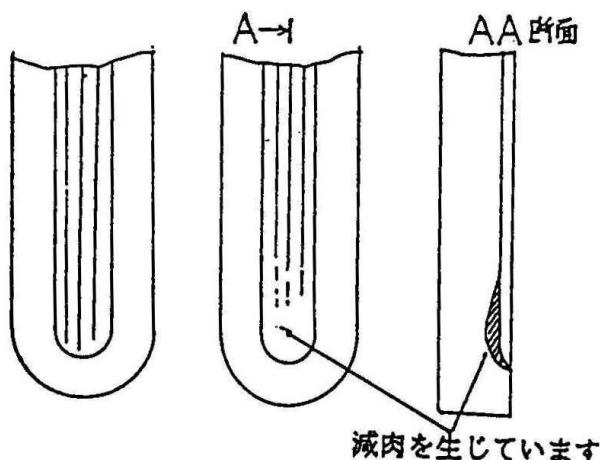
着火ガイシの点検掃除

- ・着火ガイシの絶縁チェックは、バーナ掃除の際に必ず行ってください。
- ・着火ガイシ先端の金属部は、必ずヤスリで掃除して下さい。



先端部が丸くなっている場合は、ヤスリで尖らせてからご使用下さい。

水面計ゲージガラス



1日/回の水面計ブローによる掃除を実施して頂いていると思います。

ゲージガラスは直接缶水に接触しているため、濃縮缶水により侵食されます。

ケージガラスに縦溝が入っていますが、この溝が消えてきたら、交換時期が近づいた目安として下さい。

その他

開閉器:容量・接点により多種あります。

規格、何用の開閉器かをご確認の上、交換または注文をお願い致します。

電磁弁:燃料油圧の低下等により、劣化の判断になります。

交換の際は、コイルと弁体のセットで交換する事をおすすめします。

それは、弁体にゴミをかんだ時に、過負荷がコイルにかかり、劣化する例が多いからです。

スパークテスト方法:

①オイルポンプの開閉器をサーマルトリップして下さい。

(オイルがバーナへ流れない様にする事)

パイロットバーナを持つタイプは、端子台で配線を外して下さい。

②バーナ切換を“手動”にして下さい。

③バーナ、着火ガイシに、プラグキヤップを差込んで下さい。

<注意>(この時、銅管またはフレキシブルチューブは、バーナに取付けないで下さい)

④<手動スイッチが、各工程に分かれているタイプ>

イグニッションまたはパイロットスイッチを ON にして、スパーク状況を確認して下さい。

<手動スイッチにカムスイッチを使用しているタイプ>

送風機の開閉器をサーマルトリップして下さい。その上で、カムスイッチをイグニッションの位置まで回し、スパークを確認して下さい。

